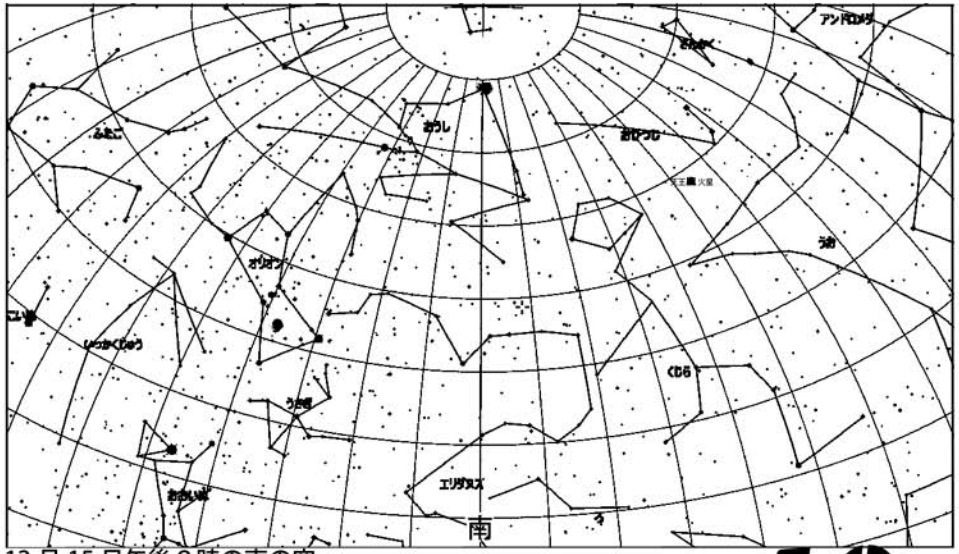
姫天だより



12 月 15 日午後８時の南の空

12月号
2020

★今月の星座 おひつじ座

２０２０年の最後は“おひつじ座”です。１２月下旬（２５日）の午後８時頃にほぼ頭の上に見つけることが出来ます。探し方は、ペガサスの四辺形の東側、うお座の北の魚の東に２等星と３等星が仲良く並んでいるのが見つかります。華やかな冬の星座の西側あまり明るい星のない部分で、天頂近くを通りますから、可児市の夜空でも見つけられると思います。

この２つの星が羊の角の部分に当たります。明るい２等星（α星）がハマルという名前で、これはアラビア語のアル・ラス・アル・ハマル「成長した羊の頭」という意味からきています。３等星（β星）がシェラタンという名前で、こちらもアラビア語のアル・シャラタイン「しるし」という意味があります。

黄道１番目の星座で星占いにも出てくる星座ですが、現在は天文学的になんら意味があるわけではありません。星座が作られたおよそ２０００年前、春分点（天の赤道と太陽の通り道黄道が交わるところで太陽が赤道を南から北へ横切る点）が先ほど紹介したβ星の近くにあったことから「しるし」を意味する名前がついたといわれています。現在はみなさんも知っているように歳差運動（地球の自転軸が２４．５度公転面（太陽の周りを地球が回る面）に対して傾いている為に起こる首振り運動）によって春分点は西隣のうお座に移っています。しかし、現在でも春分点のことを「白羊宮の原点」といって、羊の頭をかたどった　マークであらわしているのは、当時の名残なんです。

裏面に続く

星座の神話では、この羊はゼウスの飼っていた空飛ぶ金毛のひつじだと言われています。この羊が死んだのち、金色の毛皮はコルキス島の森におかれ、昼夜眠ることのない火を噴く竜に守られることになるのですが、のちに勇士ヤーソンを隊長とする探検隊によって金色の毛皮は奪われることになるのですが、その物語を描いたのがアルゴ舟の冒険物語で、映画にもなっていますので興味のある方は見てください。

★今月のテーマ ふたご座流星群の見方と火星を観る会

先月のしし座流星群に続き、今月はふたご座流星群が１４日月曜日１０時に極大を迎えます。しかも、月明かりがないので絶好の観察条件がそろっています。極大日の前後２～３日は流れ星の数が多いのでまだ見たことのない人はチャレンジしてみて下さい。ふたご座流星群は明るい流れ星も多いので、夏のペルセウス流星群より見ごたえがありますよ。夜１０時過ぎから東の方角を向いて空の広い範囲を見てください。ただし観察を始める時間も寒いですが、明け方まで観察すると、とても冷え込みます。防寒対策はしっかりして見て下さい。詳しい観察方法は、観望会の後に説明します。観望会中も流れ星が見られるといいなぁ？

火星は地球から遠くなりましたが、望遠鏡で観察するには南の空高く輝いています。次の接近を待ちながら、遠ざかっていく火星を私たちと見送りませんか？

また１２月２１日には夕方南西の空低いところで、マイナス２等星の木星と０．７等星の土星が６秒（０．１度）まで接近します。（翌日も７秒まで近づいています）これほど明るい星が接近するのは珍しいことなので、ぜひ皆さんも肉眼で、お持ちの方は双眼鏡や望遠鏡で見てみて下さい。これほどまで近づく次の接近は西暦２０８０年６０年後ですから、このレアな天体現象見てくださいね。

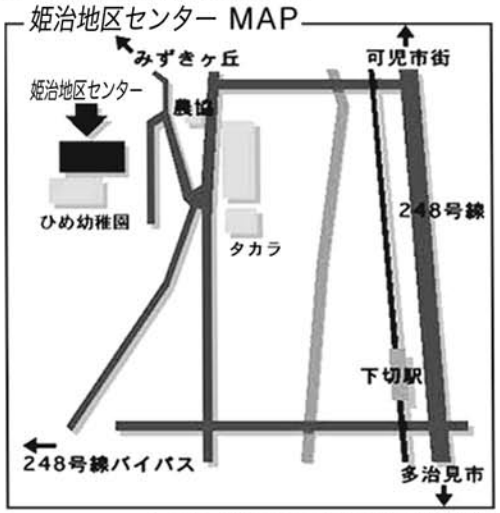
-次回の天文クラブ-

●12 月の星を見る会

12 月 12 日 (土) 午後 7 時 30 分より
火星の観察
冬の星座観察

●1 月の星を見る会

1 月 9 日 (土) 午後 7 時 30 分より
オリオン大星雲の観察
冬の星座観察



JR太多線下切駅より徒歩13分

2020 年 12 月 1 日発行

姫治地区センター
岐阜県可児市下切 1530
☎0574-62-0104
姫治天文台
http://himeziten.yu-yake.com/

※観望会についてのお問い合わせは
姫治地区センター（62-0104）まで